

○ タ イ ト ル : 患者さんの気持ちを考えたがん薬物療法
阪神緩和薬物療法ネットワーク学術講演会 2022

アンケート【開催後】

○ 日 時 : 2022年12月6日(火)18:30~20:00

○ 会 場 : 会場とオンラインのハイブリッド開催(Zoomウェビナーを使用)
場所:市立芦屋病院(兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町39-1)

○ 対 象 : 医療・介護・福祉・行政従事者、患者さんの療養支援に関わっている方

○ 参 加 費 : 無料

○ 参加者数(講師含) : 180名

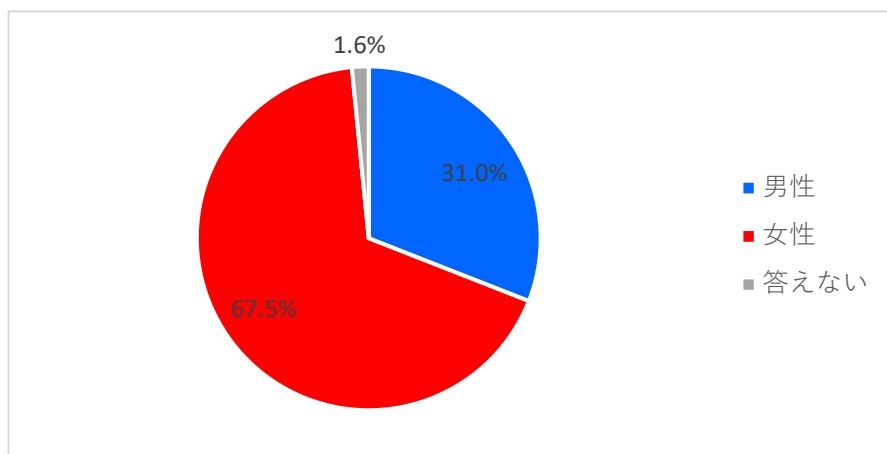
○ アンケート回収数 : 126件

共 催 : 阪神緩和薬物療法ネットワーク
兵庫県薬剤師会
兵庫県病院薬剤師会
がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進するプロジェクト(#まるコラボ)

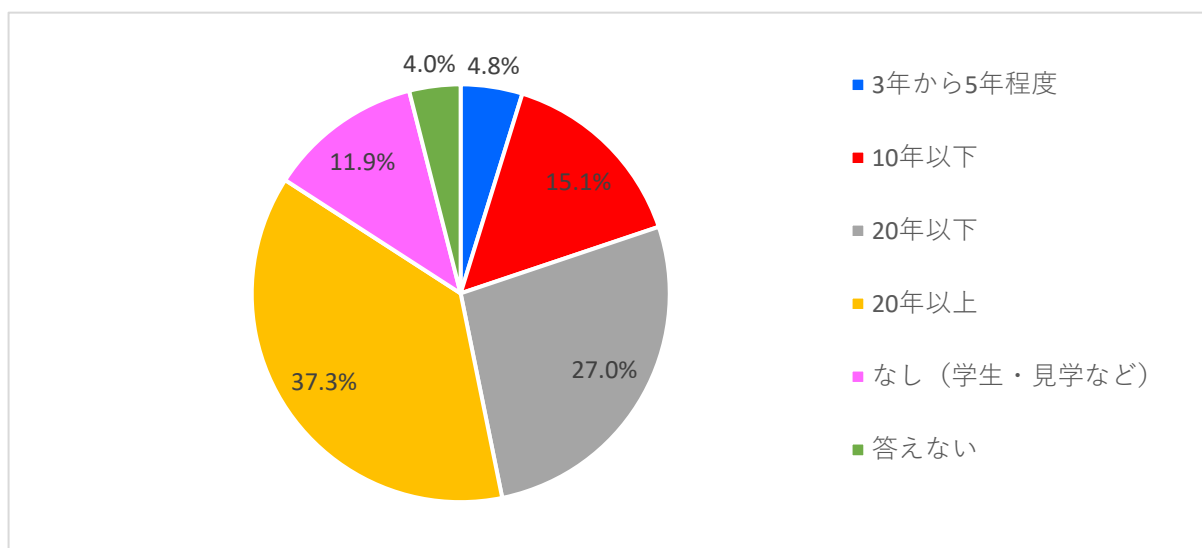
後 援 : 日本がんサポーターケア学会

日本癌治療学会／ファイザーの医学教育助成金「がん患者のためのチーム医療・地域医療連携の推進に対する取り組み」の助成を受けて開催

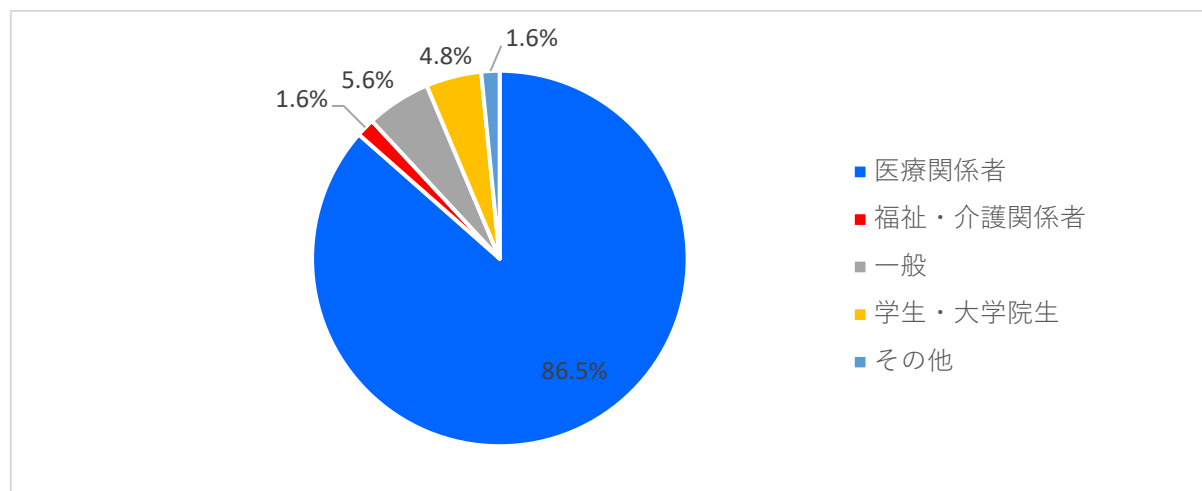
1. 性別を教えてください



2. 診療経験をお選びください

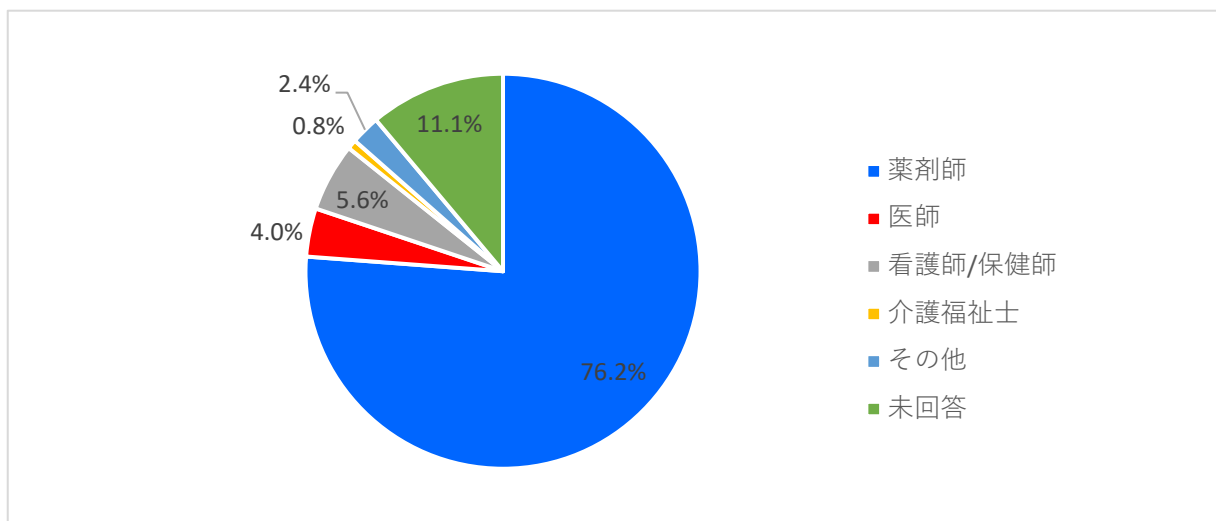


3. 職種をお聞かせください

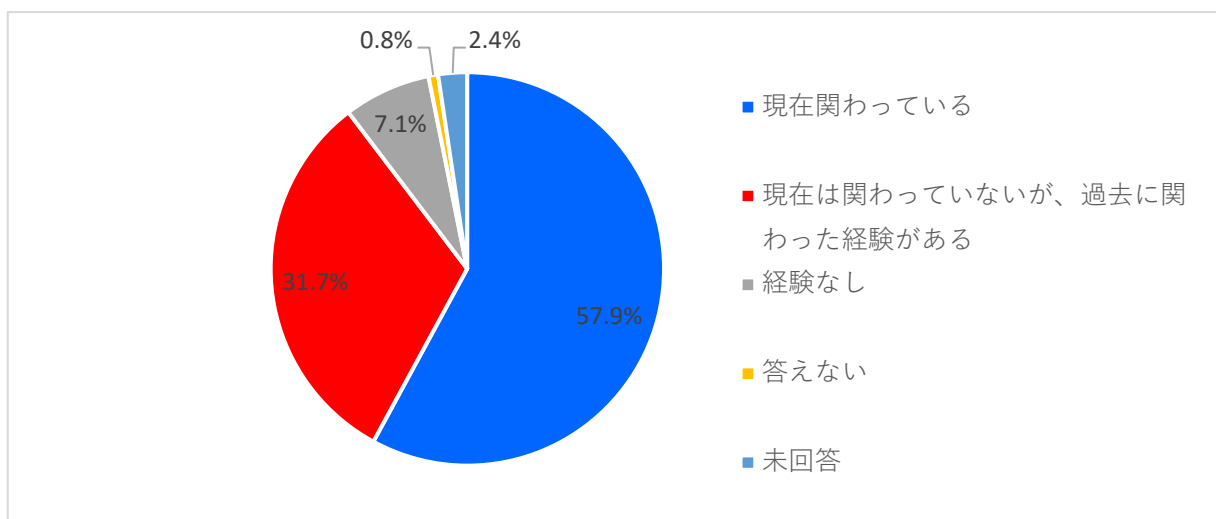


4. 上記で医療関係者および福祉・介護関係者にチェックされた方にお尋ねします。

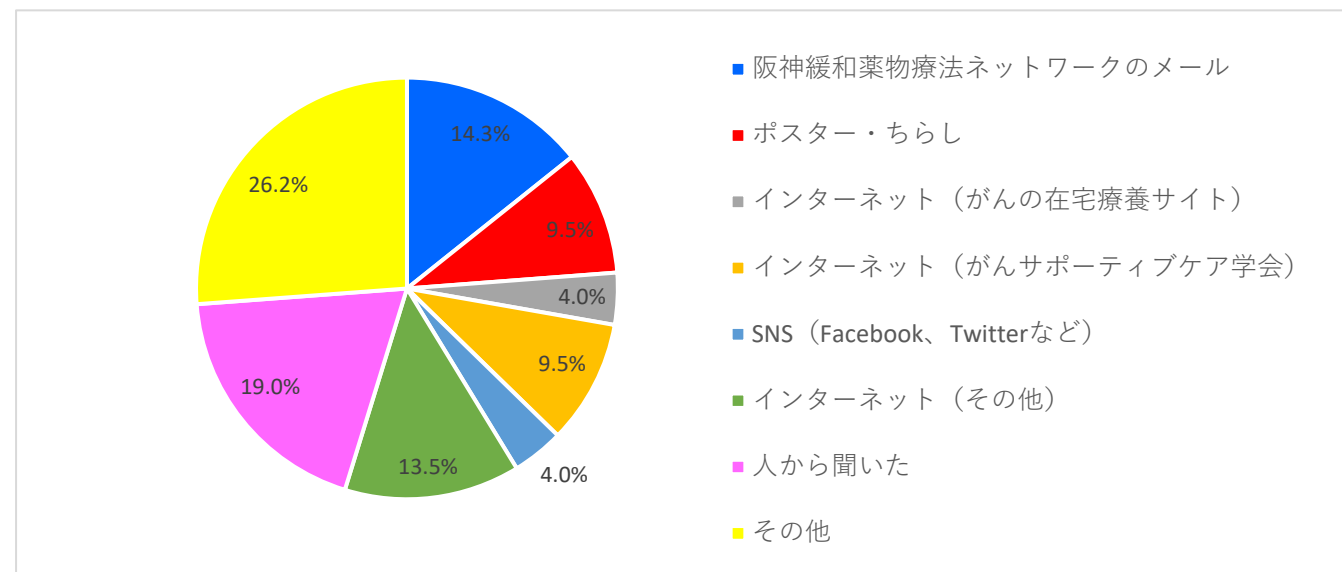
(1) 職種・専門分野をお聞かせください



5. (2) がん薬物療法に関わったご経験をお聞かせください

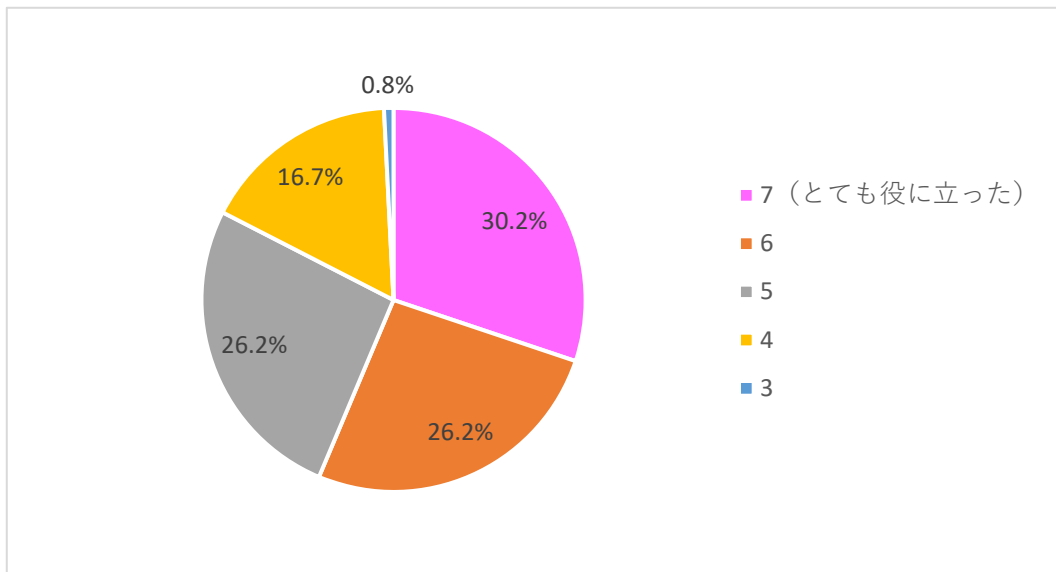


6. 研修会をどこで知りましたか

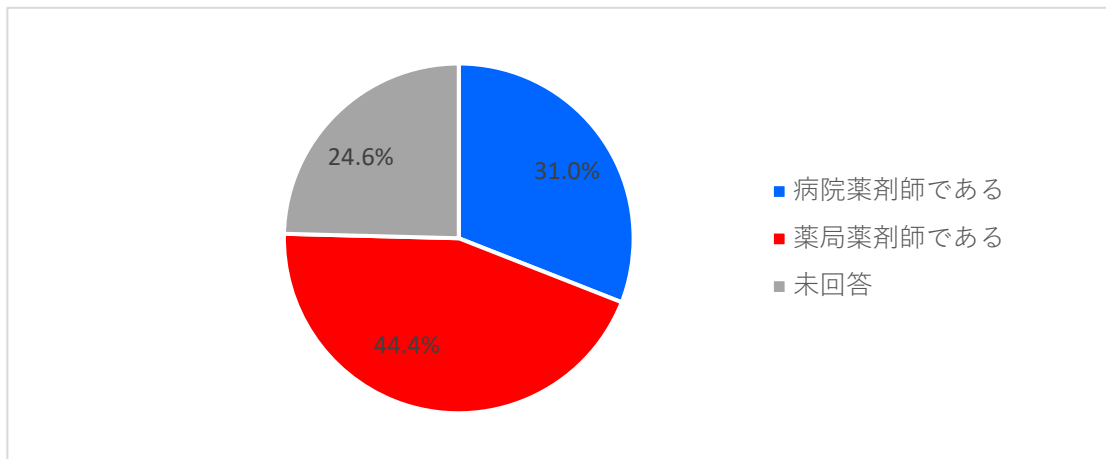


本日の研修会は役に立ちましたか（7段階で評価してください）

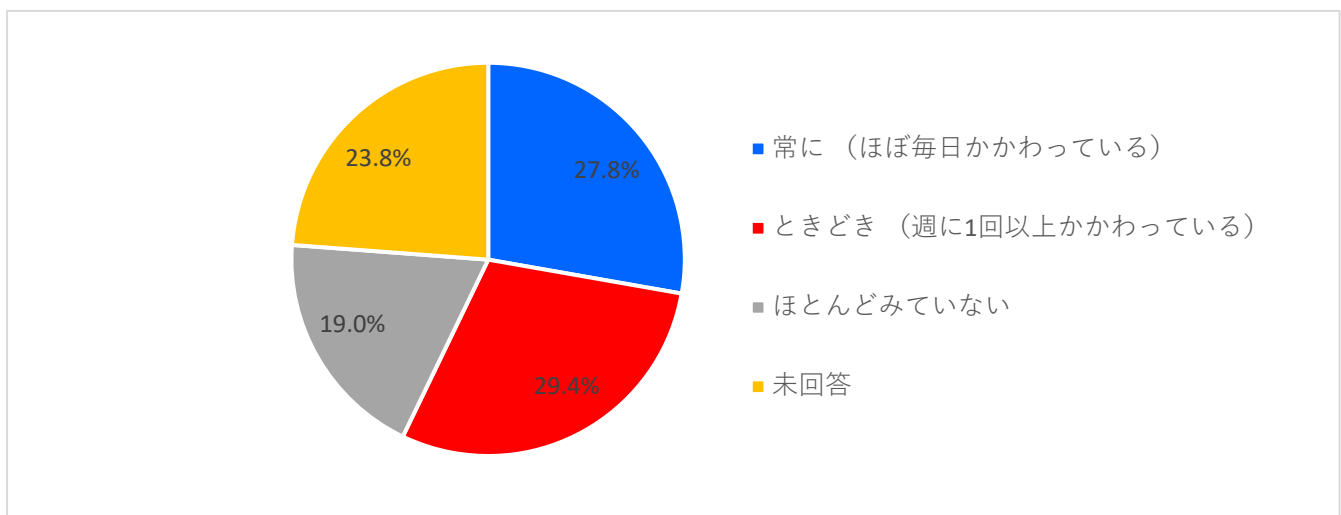
（1まったく役に立たなかったー7とても役に立った）



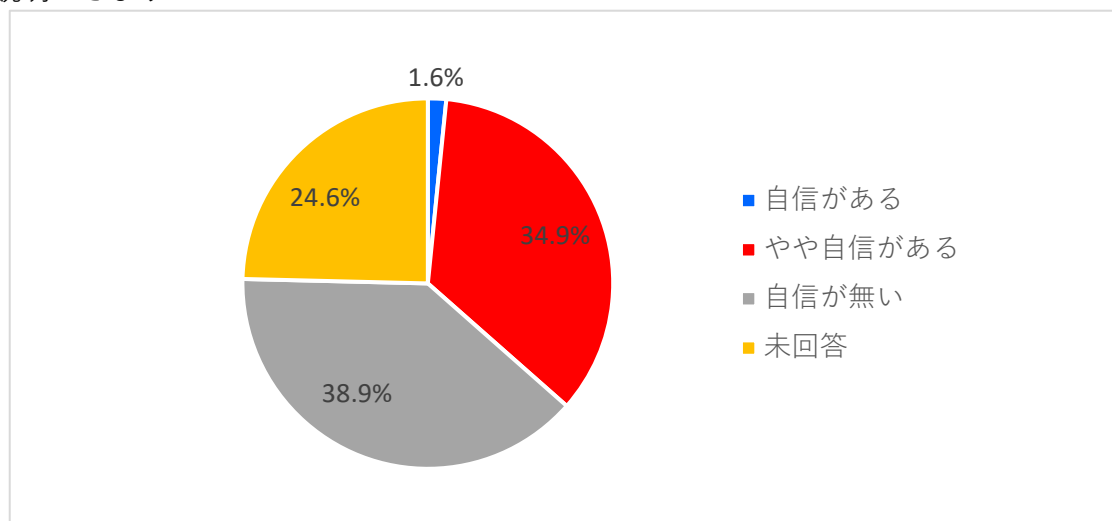
7. （薬剤師の方へ）該当する職種を選んでください



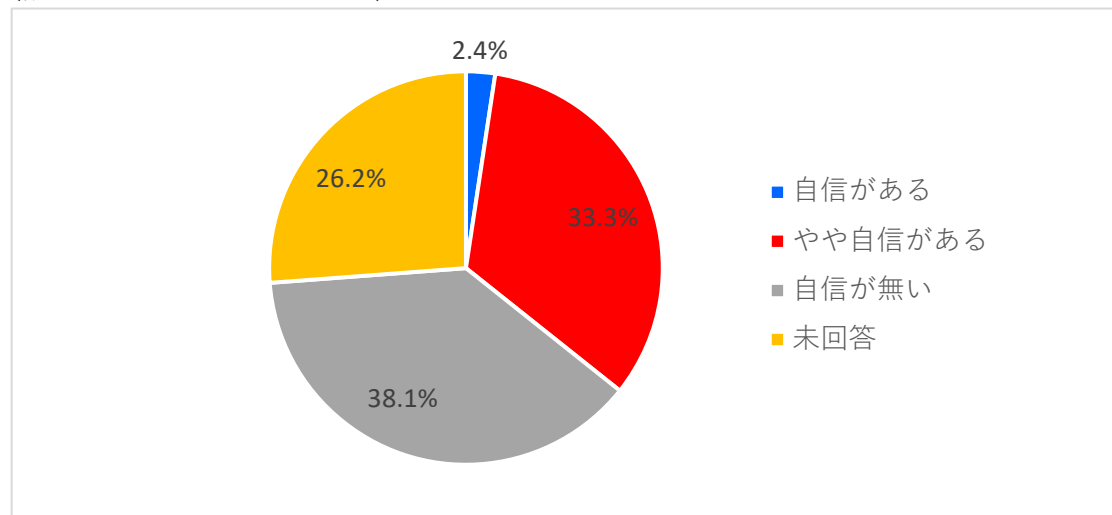
8. （薬剤師の方へ）がん患者さんをどのくらいの頻度でみていますか



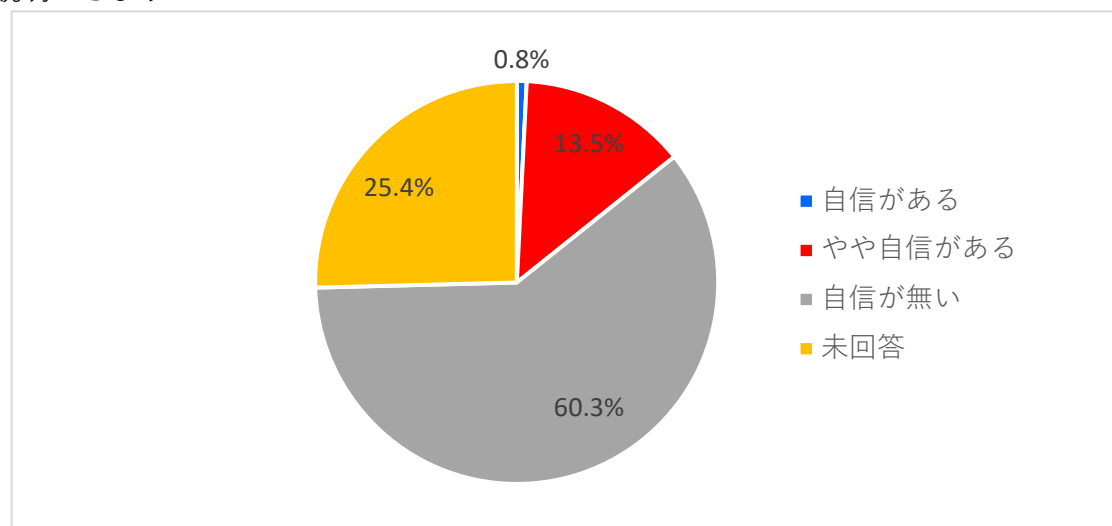
9. (薬剤師の方へ) がん薬物療法について患者さんからの副作用以外の質問に説明できますか



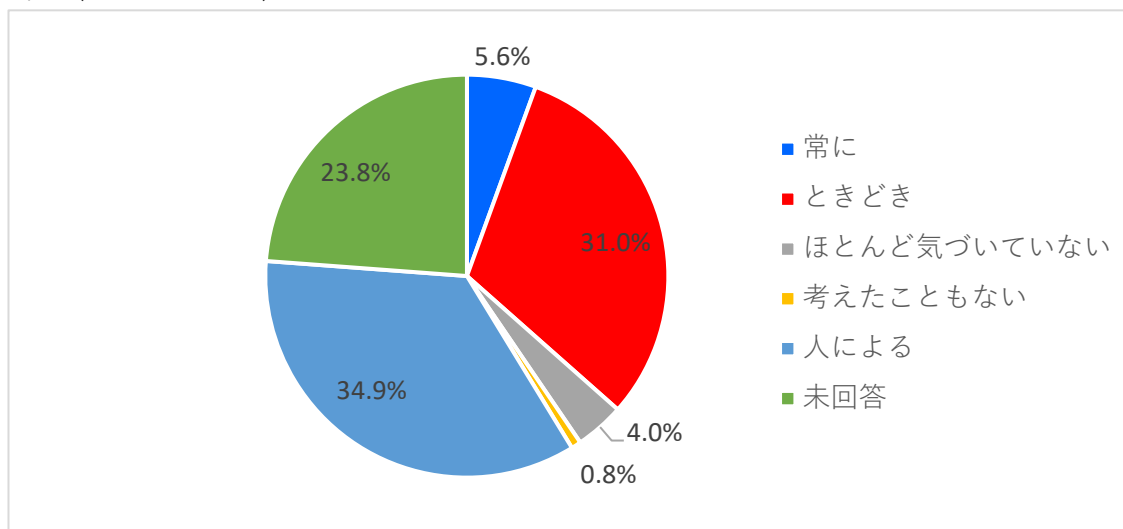
10. (薬剤師の方へ) がん薬物療法の副作用について対応できますか (説明ではなく処方提案など)



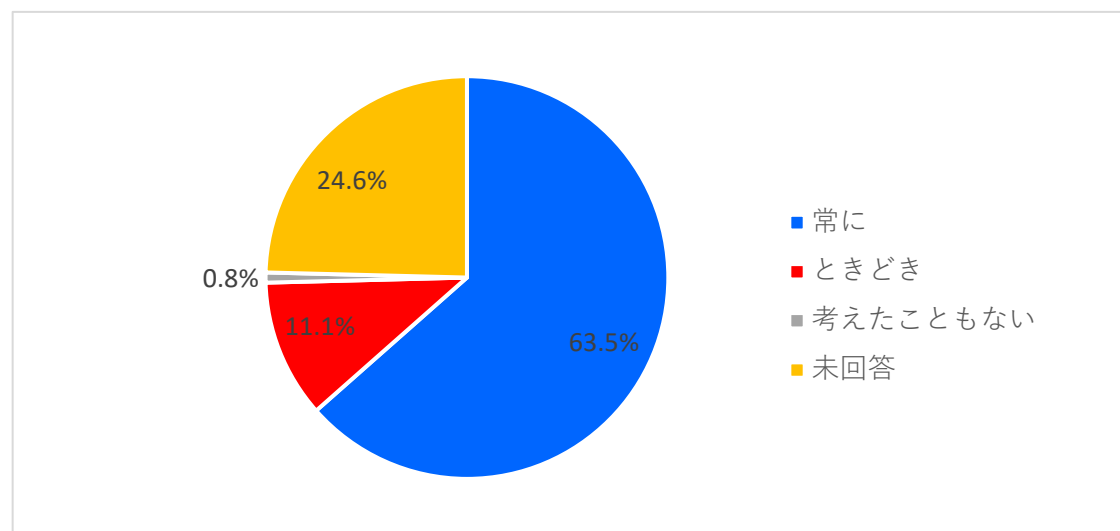
11. (薬剤師の方へ) がん遺伝子パネル検査について患者さんからの質問に説明できますか



12. (薬剤師の方へ) 患者さんの気持ちの変化に気づいていますか



13. (薬剤師の方へ) 患者さんの気持ちに配慮した説明を心がけていますか



14. 【ご参加の方すべて】 本日の研修会のご感想、ご意見をお書きください。

患者さんの声を聞くことができた (8件)
薬剤師さんの考えや思いを知ることができた (5件)
良かった、また参加したい (4件)
今後の業務の参考になった、励みになった (3件)
今日はありがとうございました。渡邊先生のご案内で参加させていただいた放送大学の学生でがんサバイバーです。私が日ごろ感じている「薬の副作用なのか、年齢的な体調不要なのかわからない」を桜井様が話されたのを聴き、自分だけじゃないのだなと少し安心しました。同時に誰に相談していいのかもわからないと、問題を放置している自分にも責任があるなと思いました。ポイントがついてクレジットカードが使える大きな駅前の薬局で薬を購入しているので、担当して下さる薬剤師さんがいつも変わります。「どうですか?」と毎回聞かれることをやや苦痛に感じていましたが(体調がよくなっているわけでもないし、がんのホルモン剤は中止できるものでもないのになんで聞くのかなと)、実は薬剤師の方もいろいろ考えての発言かもしれないと今日の講演会を聞いて思いました。患者として薬剤師さんとのコミュニケーションをもっと意識したいと思います。

患者様の生のご意見が聞けたことは有意義だったと思います。もっとがん患者様に寄り添える薬剤師でいたいとおもいます。私自身夫を肺がんで亡くしました。闘病生活の経験が今の私の力となっていると感じています。患者様だけでなく、そのご家族に寄り添える薬剤師でありたいと思っています。

かかりつけ薬局さんのがん患者の寄り添いがわかり、とても患者として嬉しく思いました。患者会やピアサポート活動の際、案内をさせて頂こうと思いました。

患者さんの思いを知ることができ有意義でした。かかりつけ薬剤師がいることは有用なお話でしたが、知識の不十分な一薬剤師としては、複数の薬剤師から各々対応をさせて頂き、考えをお伝えすることがより良いと考えています（かかりつけ反対の立場です）。

やはり、癌患者さんは、抗癌剤の副作用について、かなり気になって悩んでいる事が分かりました。私の家族や親戚・知人及び周りの方々にがんネットワークナビゲーターとして説明する時も、やはり抗がん剤全てについての有用性の質問が圧倒的に多いです。更に非侵襲的な新薬を待望している意見も多く、自己研鑽の必要性を再認識しております。今回も患者さんの立場からのご意見で、非常に参考になりました。

本日の研修会に学生として参加させていただきました。かかりつけ医は聞いたことがありましたが、かかりつけ薬剤師という言葉がこの研修会で初めて聞くことになりました。私は今までがんになったことがないので、診察を受けた病院の近くの薬局で何不自由無くいただいていたので、よくわからなかったのですが、桜井さんのお話を聞いて、がんになった時のかかりつけ薬剤師の必要性が分かりました。

患者兼シニア・ナビとして参加いたしました。連携の輪において薬剤師がハブとなりえるためには、相談者に先ずはかかりつけ薬剤師を見つけて下さいから始めないといけない。また調剤薬局は相談できるインフラ整備たとえば話しやすいコーナー作りから始めないとせっかくの人材がいても難しいと思います。

薬剤師さんの潜在能力の高さを感じました。自分を支えて下さる方という認識を今後はもっと持ちたいと思いました。

患者さんの本音の部分をお聞きでき、AYA世代が服薬を途中で諦めてしまう割合が多いと知り、それがコミュニケーション不足や治療への信頼、理解不足、サポート不足→孤独、孤立化を招いていると知りました。そして医療者の見える景色と患者の視ている景色（世界）にずれがあるということも心に留めておきたいと感じました。

患者さんが抗がん剤治療を受けられて、検査データや画像で治療前より良くなっていると良かったですねとお声かけしていたが、患者さんの治療前から治療中、治療後に出現している問題や想い（身体的、精神的、社会的）な変化を傾聴しながら患者・家族に寄り添うことが大切だと再確認できました。

立場の違いや個々人の間にはギャップがあることを再認識いたしました。その認識の違いを理解することが寄り添うための第一歩かと思えます。今日のお話を忘れず、ハブになれるよう努力していきたいと思えます。ありがとうございました。

患者様から見た薬剤師像はなかなかお聞きすることができないので、とても貴重な意見をお聞きすることができて有意義な時間でした。また、同じ薬局薬剤師でもすごく勉強されていて患者様に寄り添うことに努力されている薬剤師の方のお話をお聞きすることができて、今後の業務の参考にさせていただきたいと強く感じました。病院の薬局の先生のお話もとても参考になりました。ありがとうございました。

わかりやすいお話、ありがとうございました。かかりつけ薬剤師が医療のハブに、そうなってほしいと強く思います。また、一包化がむしろ手間でない、というのには驚きました。これからは、遠慮しないようお願いしようと思います。

がん患者に対する医療・看護・介護関係者のなかで、患者指導の認識や経験の違いがわかりました。また今後在宅でのがん患者の療養に関する研修も多面的にお願い致します。

毎日の忙しい投薬時にも、傾聴の姿勢 言葉を添えていきます。

患者さまのご意見を聞く貴重な機会でした。かかりつけ薬剤師を指名したいのにできないというのは、まだまだ薬局からのご説明が不足しているのだなと感じました。必要としている方に、伝わるような掲示を考えていこうと思いました。フロンティア薬局さまの発表も実践的な内容で、日々の業務に役立つものばかりでした。ありがとうございます。

患者様への対応の基本は、がん患者様に限らず、同じだなと感じた。ただ、がんの方には、情報を早く伝えたいという、私たちの緊急性があるのかなぁと感じた。

患者さん、薬剤師さん（調剤薬局、病院薬剤師）のそれぞれの立場で、本音で語り合える会で、へー、そうなんだ、と今更ながらですが、知らなかったそれぞれの思いを拝聴することができ、とても有益であり、明日からの診療に生かすことができる有益な情報収集や学びとなりました。ありがとうございました。

かかりつけ医と同じように選ばれるかかりつけ薬剤師、その期待と責任を自分が負えるのかと自問しながら拝聴しました。

薬局薬剤師として、がん治療されるご本人、ご家族と接する中で、徳垣先生のお話は共感する部分がとてもたくさんありました。自分がやっていることが、どうなのか？自問自答する日々でしたので、他施設の方のお話を聞くことができて良かったです。また、患者さんがどのように感じておられるのか、お話を伺おうとしますがとらえきれないことも多く、どうしようと悩むことも多いですので、桜井先生のお話はお聞きすることができて、とても良かったなと思います。

患者様のディスカッションでおっしゃっていた、病院の医師の診察の話をまたしないといけないのか。投薬する薬剤師が変わるたびに自分の治療歴を1から話さないといけないのかとの率直な意見は、薬剤師の目線で処方内容の確認など必要なことを聞いているつもりでもコミュニケーションの不一致・患者と薬剤師の視点の違いで見方が変わる大きな点だと痛感いたしました。テンプレートのような副作用確認などだけでなく、薬歴やがん治療提供書をもっと活用してその人その人に合わせた薬学管理を行っていきたいと思います。本日は貴重な研修会をありがとうございました。

薬の副作用は私たちがこのくらいつらいのかなあと考えている以上に、患者さん自身はつらいということを知りました。

医師や薬剤師の立場からだけでなく、患者の立場からの意見がお聞きでき、とても貴重な時間でした。薬局でなかなか話して下さらない患者さまもいらっしゃいますが、時間をかけて顔を覚えていただき、いつかお話し下さったときに寄り添える薬剤師でいたいと思いました。

患者様側のご意見を聞く事が出来、とても参考になりました。同じ人に投薬してもらいたいというご意見に驚きましたが、これからの業務に活かしていきたいと思いました。

いろいろなたちはからのご意見が聞けて、知見が広がりました。相手の気持ちに寄り添う事の大事さを感じました。

患者サイドの話がとても新鮮でした。冷たくあしらわれることもよくありますが、根気強く自分はわかりたいんだという気持ちをお伝えしていけたらと思いました。

かかりつけ薬剤師を持てるような仕組み作りが必要と感じました。

普段がん治療をされている患者さんに接する機会が多い中、とてもためになった。

地域の薬剤師さんと平場で話ができればもっと、いいのになと思えました。ありがとうございます。

薬剤師の方々の、患者さんのためになりたい、という真摯な姿勢に打たれました。

薬物療法は患者目線と医療者目線では大きく違う点と協力・寄り添うことで大幅に改善できる可能性を感じました。

患者さんがどのように思っておられるのか聞くことができ、とても良かったです。薬局薬剤師として徳垣先生のお話は、共感することがたくさんありました。他薬局の方がどのようにされているのか知ることができてよかったです。

15. 【ご参加の方すべて】「がん患者さんのためのチーム医療と 地域連携の推進」に向けたご提案をお書きください。今後の企画の参考にさせていただきます。

自分のことを書かせていただくと、がんの手術をした病院には1年に1度、放射線治療を受けた病院（電車で4駅）は半年に1度、普通の薬（ノルバテックス）の処方自宅からは少し離れたクリニック（手術をした病院からの紹介）に3か月ごとで、薬の処方は電車で3駅のターミナル駅の前にある大きな薬局です（クリニックとは違う市）。私にとっての地域とはどこ？と置いてしまいます。地元の薬局は過去に薬がそろわなかったことがあり（大体隣にある医院の先生が処方される薬をメインに置いていますよね）、近所の薬局をかかりつけ薬局にするのはためらいます。大きな薬局も地元の薬局もクリニックの近くではないですし、薬剤師さんに相談するというのは私にとってはなかなかハードルが高いような気がします。

病院薬剤師さんと、調剤薬局薬剤師との連携はなかなか顔が見える関係ではないし、難しいのかなと思っています。最近では患者情報提供書を発行してくださっているので、とても役に立ちます。ただトレーシングレポートを提出してもそれをみていただけているのかわからないので、自分の提出した分がそれで良かったのかわからなくて、気になることがあります。

癌患者さんが、がん拠点病院で診て頂いている時は、いいのですが、その後の地域での医療がなかなかスムーズにいかないように思います。どうしたらスムーズに連携できるかを学びたいです。

やはり我々「がんネットワークナビゲーター」としての地域医療に貢献する役割が、益々重要になっている事を改めて認識させられました。チーム医療を実施している癌治療拠点病院と連携している各エリアのかかりつけ医及びかかりつけ薬局の専門相談薬剤師とも連携しながら、患者さんとその家族の方々のメンタルケアも含めた総合的相談の必要性が、非常に求められている事も再認識出来ました。又エリアの行政も絡めた総合的な相談窓口の設置も必要と感じております。癌撲滅に向けた理想郷実現の為に、努力し続けていきたいと考えています。

私はがんになったことがありませんので、がん患者さんのことについてよくわかりませんが、それでも自分自身のお薬手帳についてよくなるか考えたことがあります。手帳ですので記載する内容には限りがあり、より詳細な情報について別の紙でいただくことがあります。紙ですと、スペースの問題でなかなか長期間保存するのが難しいので、マイナンバーカードと紐づけてより詳細な情報を電子的に閲覧できるようになればいいと考えたことがあります。

父ががん末期で在宅に移行した際に父が懇意にしていた調剤薬局薬剤師ではなく在宅医のチームの薬剤師が入り意志疎通できませんでした。結局最期まで薬に苦労しました。

美容院や理容室、カルチャースクールもチームに入っていると、嬉しい気がしました。

心理職も、参画したい！

今回のような、患者さんの気持ちを聞くような機会の重要性を感じました。

ディスカッションにも出てきていましたが、お薬手帳をもっと活用できればと思います。患者様も自由に記入して頂いていいということも薬局からお伝えしていこうかと思います。病院と薬局との伝達のツールとして利用できたら薬局でもっと患者様との会話がスムーズになると思います。

レジメンのお薬手帳への記載はどの病院でもお願いしたいです。初回に地域の薬局を利用するメリットを伝えてほしいです。なぜなら地域の薬局に来局されたことのない人には、そのような意識がないからです。普段から地域住民向けの活動を行えていないことも原因ではありますが。

化学療法センターで勤務経験あり、現在は訪問看護しています。病院では治療前に患者様と面談し相談にのります。患者様の治療に対するアドヒアランスも確認できています。訪問看護もケモ後の内服の確認など行います。看護師との連携が出来ると良いと思います。訪問看護師としては是非連携したいです。実際、薬局様と電話にて連携しています。

お薬手帳の利用は今後大事になるだろうと思えます。

病院でも薬局でも同じ説明を受けることができる、お互い指導した内容を共有できる、ということがとても大事だと思います。実際、患者さまから、病院薬剤師と薬局薬剤師が同じ内容の説明や情報共有していることが分かると、安心感が全然違うと言われいろいろな困りごとを相談されることが増えてきています。今日の内容にもありましたが、患者さまと信頼関係があれば、副作用や生活に出てきている支障も早くみつけることができ、手立てを早い段階で考えることができるようになりますと思います。そうやって薬局薬剤師が患者さまから相談を受けた内容を一人で抱え込まないですむように、すぐにチーム医療に相談できるツールがトレーシングレポートだとか薬剤部との連携だとか、そういう形の地域連携が進めばいいなど、わたしは思います。

本日も出ていましたが、患者さんの情報が病院の医師と薬剤師と看護など、コメディカル含めて情報共有されていますが、一歩外にでると、診療所などの診療施設とは情報共有されるのですが、調剤薬局となると情報共有されなくて、服薬指導など行うにも、謎解きのように想像を働かせなければなりません。現行の法制度の中でも、何か工夫でその点をブレウクスルーできる工夫や対処法はないものか？皆さんとともに考えることができると受診者の利益が増すと思います。是非、ご検討いただけますと嬉しいです。

病院と地域を交えた多職種による意見の交換する場があればよいと思います。

病院⇄クリニック、病院⇄薬局、クリニック⇄薬局、それぞれがこれを伝えたら良い・うまくいくと思っていることと、実際にこれを伝えてほしいと思っていることに乖離はないのかなと思うことがあります。それがずれてしまって、うまくいかないということはないのか、かみ合わないなってなること等。そのあたり、それぞれの立場でお話できるような企画があると嬉しいです。

症例検討会への参加。

例えば高齢者はたくさん病院に受診されていたりするので、おくすり手帳を患者さんが持っているだけでなく、活用ができるといいと思う。

学術講演会やもう少し小さい意見交換会の開催を期待しております。

今回のように、患者様からのご意見を聞く機会があるととてもタメになると思うので、また企画していただきたいです。

ACP策定に向けた地域的な取り組み例などあれば知りたいです。

また、聞かせて頂ければと思います。

各職種のがん患者さんへの取り組みや工夫されている事、実際の介入事例など紹介して欲しいです。

非常に患者側の意見が驚くことが多かったので、今度はよくある対話のようなシミュレーションをやってもらえたらと思いました。

また患者さん側のお話を聞いてみたいです。

かかりつけ薬剤師さんが、患者さんの治療ないし障害の伴走者になりうる、ということは、大変感じ入りました。そのためには何が必要か、答えはまだありませんが、考えていきたいと思います。

在宅がん療養財団様のHP等による啓発情報の充実が重要と考えます。

兵庫県病院薬剤師会・兵庫県薬剤師会で作成された連携書式はありますが、SNSなどを活用した連携の形はどう思われますか？また、それが稼働しているところは、どんなメリットとデメリットがあるのか知りたいです。